

抗菌薬（注射剤）適正使用

県連薬事委員会

I 薬剤師は、以下の仕組みにて抗菌薬注射剤の適正使用支援活動を行う。

みどり病院ASP（Antimicrobial Stewardship Program：抗菌薬適正使用支援プログラム）

（目的）抗菌薬を適切に使用する（使うべき時はしっかり使う）ことにより、耐性菌生産の温床を作らない→使えない抗菌薬を増やさない。

- 【抗菌薬開始後 数日以内に注射番の薬剤師が以下を行う】
 - ① 抗生剤開始時、カルテ記載を確認する。なければ記載を主治医に依頼する。
 - ・ 診断名（部位）
 - ・ 想定される起炎微生物
 - ② 必要な塗抹培養感受性検査の実施があることを確認する。
 - ★ 以前の検査結果は使用できない。抗菌薬開始直前にて検査する必要がある。
 - ③ 選択された抗菌薬が標準薬※でない場合、主治医へ情報提供する。
用法用量が標準量※と異なる場合、主治医へ情報提供する。
 - ★ 過少量では効果不良の際、用量設定の問題か、抗菌薬選択の問題かが分からなくなるため、腎機能に応じた用量の最大量を使用する。

※当院の抗菌薬使用基準及び【CKD 診療ガイド 2012/サンフォード/感染症診療の手引き】を元に情報提供する。

- 【検査科より伝票（塗抹検査結果）が届いたら病棟担当薬剤師が以下を行う】
 - ① 想定される起因菌のグラム染色の形態が検出されているか否か確認しカルテ記載する。
 - ② 尿路に対する抗菌薬の使用で、塗抹検査結果が陰性の場合は速やかに主治医へメール連絡する。
- 【検査科より伝票（培養・感受性検査結果）が届いたら、病棟担当薬剤師が以下を行う】
 - ① 想定される起因菌が検出されているか否か確認しカルテ記載する。
 - ② 感受性検査結果を確認し、抗菌薬変更が望ましいと思われる場合は主治医へ情報提供する。

Ⅱ 細菌検査・TDM結果フィードバック方法について

以下①、②については全例、検査結果を外注先より速報（FAX）にて得てASに活用する。

- ① 広域スペクトル抗菌薬（メロペン、イミペネム・シラスタチン、マキシピーム）およびタゾピペ（PIPC/TAZ）使用症例の細菌検査結果
- ② 抗菌薬TDM用の血中濃度検査結果

（速報を得るしくみ）

- ① 薬剤師が注射薬の処方監査時にオーダーされた検査を電カルにて確認した上で、①については検査科へ速報依頼をする。検査科は外注先へ速報依頼し、速報が届いたら主治医および薬剤部へ連絡する。
- ② については外注先からルーチンで速報が届くので、同様に主治医および薬剤部へ連絡する。

ⅢASの指標として今後も継続してモニタリングしていく。

- ・ 抗菌薬使用患者の細菌検査実施率
- ・ 広域スペクトル抗菌薬（メロペン、イミペネム・シラスタチン、マキシピーム）および抗緑膿菌カバー抗菌薬（タゾピペ、ペントシリン）からのDeescalation 実施率